

平成29年度 自己評価及び学校関係者評価書

秋田市立山王中学校

1 本年度の学校評価をふりかえって

本校は創立65年目となり、2万6千人もの卒業生が県内外で活躍している伝統校である。平成28年度から教育目標「山王魂 やる気燃ゆる者 道を拓く」とし、平成29年度からは「やる気」の原動力として「志を育む教育」の推進を研修主題とし、「いかに生きるか」をテーマに、生き方を学ぶ多様な体験や学習を通して、学びのプロセスを大切にきたキャリア教育の充実を図ってきている。このような取組により、挨拶、拍手、歌声が響く学校づくりが推進され、互いが認め合い高め合う生徒集団となった。生徒会活動や部活動においても、64年ぶりの全県野球大会の優勝をはじめ、数多くの金字塔を打ち立てることができた1年となった。

2 評価結果の概要

	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導	「志」をもってよりよく生きようとする「志を育む教育」の推進	・昨年度は、各学年の取組であったものを体系化し、段階を踏んだ取組の充実を図ったことで、生徒が自分の言葉で「志」を語るができるまでになった。転入職員および新入生に対する「志」の基本的な考えを深め、浸透させることが課題である。	A	・教職員の理解なくして生徒の理解が深まるはずもなく、全教育活動を通して推進を図る。上級学年の活動をモデルに下級生がその実践から理解を深めていく。	・アンケート調査により自分に自信をもてない生徒も見られることから、教職員が共通理解に努め、子どもを称揚する場面を意図的に増やしてほしい。記述等を通して、子どもの本音と弱音の理解に努めてほしい。
	「分かった、できた」を実感できる授業づくりの確立	・生徒指導の3機能を生かした指導の充実を図ることで、個々の生徒の自己有用感を高めるとともに、校内授業参観や授業研究会、年2回のQ-U調査により、生徒の学級における所属感を理解し、適切な個別指導を実施した。しかしながら、十分な配慮があったかとなると課題点も見られた。	B	・校内研修会を通してQ-U調査の結果を協議し、手立てを講じたことで、生徒がどのように成長したか確認の上、再び協議する。さらに、普段の授業を通して、生徒の個性の伸長を図る。	・体験や行事等に加え、普段の授業においても「問いかけ」を大切にしていることから、引き続き重視して取り組んでほしい。 ・言葉で発することや書くことなど、表現力の育成に努めていることはよい実践と評価できる。
生徒指導	いじめ防止の取組の充実	・学級担任が常に生徒に寄り添うとともに、「ふれあいノート」によるコミュニケーションや教育相談を通して、生徒の悩みや不安の解消に努めた。また、いじめを認知した場合は、「山王中いじめ対策基本方針」のもと、丁寧に対応した。保護者および生徒への基本方針等の周知が重要であると考えた。	B	・いじめの未然防止や早期発見に努め、いじめを認知した場合は、速やかにチームで対応する。校報の発行やPTA活動を通して、「山王中いじめ対策基本方針」について周知し、保護者や地域の協力を得る。	・中学生の段階で心身のバランスがとれた子どもを育成することは難しいと考える。子どもの心の変化を捉え、家庭との連携を深め、教職員が親身になって生徒と向き合うことを期待する。 ・特別に支援を要する生徒には、学習はもちろんのこと、生活においても十分な配慮を依頼したい。
	生徒会、委員会、学級活動の充実	・「志教育」の理解が深まったことにより、「いかに生きるか」「何をすべきか」を考える生徒が多くなり、積極的に活動に取り組む様子が見られた。	A	・率先垂範して取り組む生徒が増え、相乗効果をもたらしている。より一層リーダーの育成に努める。	・学校教育目標の達成に向けて、教職員が一丸となって取り組んでいる姿が多く見られ、そのことが数値に現れていることは十分評価できる。
管理調整	危機管理体制の整備・充実	・幼稚園との合同避難訓練を通して共助の精神を学ぶとともに、毎月11日を東日本大震災の月命日とし黙祷を捧げている。また、自衛隊員による防災講話会を通して、防災の知識を深めた。	A	・指示待ちではなく、自らの命を守ることが人の命を守ることを認識できるよう知識と態度を身に付ける。	・幼稚園との合同避難訓練は、中学生にとって貴重な体験となっている。災害弱者の存在を中学生の段階で理解できることは、大変重要であると考えた。
家庭・地域	小中連携、地域との協力体制の推進	・学区小学校への出前授業を通して、中1ギャップの解消に努めるとともに、教員同士の連携および研修の機会となった。学校間における受入の隔たりが若干見られた。	A	・学校間の事前の協議により、児童や教員の要望や本校の出前授業で成果を紹介するなど、連携を強化する。	・学区小学校の教務部と連携し、各校の実態から、児童のニーズに合った出前授業を行うことで成果が上がると思われる。引き続き連携の強化に努めてほしい。